

キーワード

大腸がん

短期化学発がんモデル

アゾキシメタン/デキストラン硫酸ナトリウム

▼こちらから▼



公式サイト

短期大腸発がんモデル

発がん剤のアゾキシメタン（AOM）及び大腸炎症誘発物質のデキストラン硫酸ナトリウム（DSS）を用いて誘発する大腸発がんモデルをご紹介します。

詳細についてのご質問や相談がありましたらお気軽にお問合せください。

スケジュール・試験方法

使用動物

マウス ICR及びC57BL/6J

誘発物質

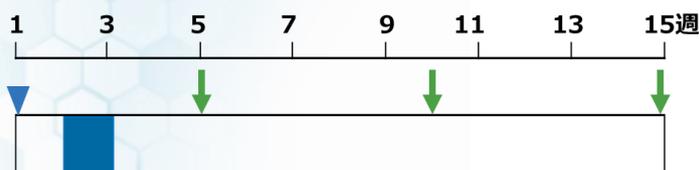
〈イニシエーター〉

アゾキシメタン（AOM）

〈プロモーター〉

デキストラン硫酸ナトリウム（DSS）

試験スケジュール



▼ : アゾキシメタン (AOM) i.p.

■ : DSS 飲水投与

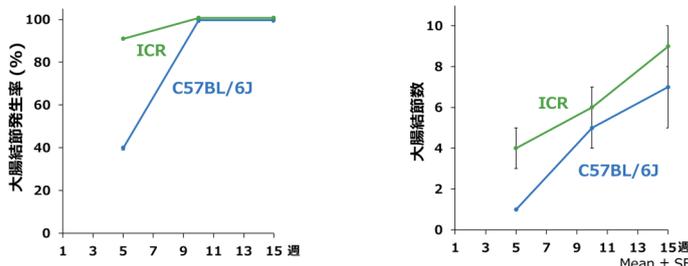
↓ : 剖検

評価項目

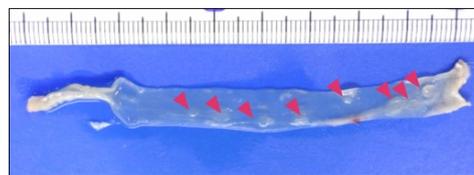
- ・剖検（AOM投与後5週、10週、15週）
- ・大腸結節のカウント
- ・病理組織学的検査

結果

- ・ICRはAOM投与後10週より腺腫の形成があった。
- ・C57BL/6JはAOM投与5週より腺腫が形成し、AOM投与後10週より腺癌の形成があった。
- ・悪性度は、C57BL/6J> ICR



AOM投与後の大腸結節発生率及び結節数



ICR



C57BL/6J

AOM投与後15週の大腸

▼ : 大腸結節

モデルの利点

- ✓ 短期（10週間）で大腸がんを形成
- ✓ 発がん性の評価が可能

検体の発がんプロモーション作用の評価や抗がん剤の薬理評価にぜひ活用ください。